



# 学校の適正配置を 円滑に進めるための取組は

竹村 仁司 議員

## 年内には地区説明会を開催したい 教育部長

昨年9月に「愛西市立小中学校適正規模等基本計画の提案」が提出された。適正規模による効果だが、どのような意見交換の中から導き出されたのか。

**教育部長** 保護者等へのアンケートや地域懇談会での意見にあった、児童・生徒の人数及びクラス数が少ない、クラス替えのできる規模にしてほしい、部活動の選択肢が少ないなどのデメリットの解消を念頭に置き、検討協議会で協議・検討してもらった。

デメリットの解消については、この提案の中でも上げられている多様な学習形態を取り入れた教育が可能になる。そこで、少人数学習、習熟度別学習の効果についての認識は。

**教育部長** 適正規模の学校であるなら、少人数の振り分け方の変化や習熟度に応じたグループ分け

をしての学習形態がとれるということがメリットであると認識している。市内の小中学校において、少人数学習、習熟度別学習の導入は。

**教育部長** 少人数学習については、現在5校、永和小、佐屋小、立田北部小、北河田小、西川端小が取り入れている。学校ごとに進め方の違いはあるが、全てで算数において少人数学習を取り入れ、立田北部小は国語においても少人数学習を行っている。毎年協議を行い、その学年に適した学習形態について考えている。習熟度別学習においては、佐屋小以外は導入していない。

基本計画の提案の中では、この統合案は望ましい順とある。望ましい順というのは、統合案の1番目、施設一体型の小中一貫校が一番適正規模になるとの提案だ。そこで、この案が一番望ましい理

由と、通学距離などを含む幾つかの課題について伺う。

**教育部長** まず施設一体型の小中学校が一番望ましいということ、現段階では決まっていない。通学距離等を含む諸課題については、方向性が決まってるから議論することになっている。

市立小中学校適正規模等基本計画の提案を受けて、市長が思い描いている愛西市の小中学校教育とは。

愛西市立小中学校  
適正規模等基本計画の提案



平成28年9月  
愛西市立小中学校適正規模等検討協議会

▲小中学校適正規模等基本計画の提案書

**市長** 子どもたちにとってどういった学校教育、学校環境が一番良いものなのかということ念頭に検討を始めてもらいた。子どもたちが安全で安心して通えるよう、そして何よりも子どもたちが行きたいと思える学校をつくってもらいたい。多くの友達・仲間をつくり、「小学校、中学校は楽しかった」と話せるような学校をつくってもらいたいと思ってる。